

[掲載紙] 読売新聞「レンゲツツジ」

[掲載日] 2016年11月21日

[テーマ] 子育て緊急事態に「プランB」

育児中に最も困ることの一つが、子供か親である我々、もしくはその両方が急に体調を崩すことである。親子ともに体調万全であることを前提にしているスケジュールが土壇場で実行不能となる。しばしば映画で見かけるように、「プランB」(次の手)が用意されていれば良いのだが、現実には代替プランなどないことがほとんどだ。

私は3か月に1度、支店長会議に出席するため、東京に2泊3日の出張をする。それがほぼ唯一の東京に行く機会で、妻と2人の息子(2歳と1歳)はその間、東京にある妻の実家に帰省するというのが、これまでの決まりであった。ところが、妻が今回の会議の時には東京に行かず、群馬に残っても良いと言う。東京で生まれ育った彼女であるが、こちらでもママ友がたくさん出来て、東京を恋しく思う気持ちが少し薄れたのだろう。

そこで私一人で東京に行くことにしたのであるが、出発予定前日の土曜日になって、妻が、体調が悪いと言い出した。当初は流行の風邪だろうと思っていたが、翌日になるともう少し深刻そうで、休日診療の医療機関を受診するに至った。処方された薬ですぐに回復することを期待したが、そうはならず、結局その夜、義母に前橋まで来てもらい、妻を含め3人の世話をお願いすることになった。

義母にやってきてもらうことが今回の「プランB」と言えなくもないが、義母は動かせない用事があり、火曜日、朝一番の新幹線で東京に戻る必要があった。「月曜日までに妻の調子が戻らなければ、自分が火曜日の予定を早く切り上げ、前橋に戻る必要があるかも」。そんなことを日曜日の夜、空席の目立つ新幹線の車中で独り、考えていた。

月曜日の夜、妻からメールがあり、少し体調が戻ってきたとのこと。「良かった」とホッとしていたら、火曜日の朝、まだダメだと言う。ただ、「前橋の家にいるのは長男だけなので何とかなりそう」と。実は状況を見かねた義母が、まだ幼く手のかかる次男を東京に連れて行き、義父や義祖母に面倒を見てもらっていたのであった。ありがたい。これこそ「プランB」だ！

出張を予定通り終えた火曜日の夕方は、「プランB」からの撤収作業である。まず、東京駅の新幹線改札口で次男をベビーカーごと義母から受け取る。そして、駅員さんから比較的空いているとあらかじめ聞いていた越後湯沢駅行きの新幹線に次男とともに乗り込む。あとは、高崎駅で両毛線に乗り換え、前橋駅まで戻ることが出来たら、大成功である。

ベビーカーを押しつつ、キャリーケースを引っ張って、通勤ラッシュ時の鉄道に乗り込むことは不安だったが、いざやってみると、全く問題なし。荷物を動かすのを手伝ってくれる人や、変顔をして次男を楽しませてくれる人などがいて、1時間20分の移動時間はあっという間に過ぎた。

後日、この時のことを改めて話題にしたら、妻は「新幹線に乗っていたのは多くが群馬に帰る人。群馬の人はやっぱり良い人ばかりなのよ」と即座に返してきた。妻がいつの間にか、私以上に群馬びいきになっていることに気付いた瞬間であった。

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕